

## 基準範囲って何？

---

新型コロナウイルス感染症が感染症法の『2類感染症』から『5類感染症』に変わり、最初の夏がやってきました。これまで自粛していた友人・会社の同僚などとの会食が増え、暴飲暴食が続くと血糖値や尿酸値が高くなっていないか気になりますね。今回はご自身の検査値が高いのか？低いのか？を判断する目安となっている『基準範囲』についてお話させていただきます。

現在、『基準範囲』という言葉は一般的に使われていますが、以前は『正常範囲』という表記をしていました。『正常範囲』は健康な人の検査値と理解されていたため、検査結果が正常範囲内であれば自分は健康であり、外れていたら病気かもしれないと思ってしまった人がいたかもしれません。では『基準範囲』はどうやって決めているのでしょうか？

基準範囲は健康の状態が適切に定義された基準に則って選ばれた基準個体から調べます。この基準個体のデータを何百、何千と集め、統計学的処理をした後に測定値の分布の中心を含む95%の基準値が含まれる範囲を『基準範囲』と呼びます。ここで覚えておいてもらいたいのは95%の人が収まる範囲を基準範囲としているので、上端と下端の各2.5%の方は健康であるにも関わらず基準範囲から外れてしまうということです。つまり100人中5人は基準範囲から外れてしまうことを意味しており、健康な状態なら絶対に範囲内で収まるという事ではありません。また、各人の基準値は病気とは関係なく一日の生活の中で様々な要因で変動しています。性別、人種、日内、年齢、食事、運動、気象など様々なものが検査値に影響を及ぼす要因となるので、医師は血液検査だけでなく画像診断検査など他の検査を組み合わせる多角的な視点から病気を見つけていきます。

基準範囲について説明してきましたが、基準範囲は基となるデータを集めるときの集団が異なれば上限と下限の幅に違いが出てしまいます。同じ項目なのに医療機関によって基準範囲が異なっているのはそのためです。この問題を解消するために現在、日本臨床衛生検査技師会と日本臨床検査標準協議会では血液検査がいつ、どこで実施されようとも信頼性の高い検査結果を報告できるよう、血中32成分を対象とした『臨床検査の標準化活動』を進めています。これによって全国共通の『共用基準範囲』を使用することができるようになります。

【中央検査科科長補佐 臨床検査技師 高田 剛】

